



MORESCO

第57期

中間報告書

平成26年3月1日～平成26年8月31日

Interview

社長インタビュー

グローバルな研究開発体制の構築を目指して

株式会社 MORESCO

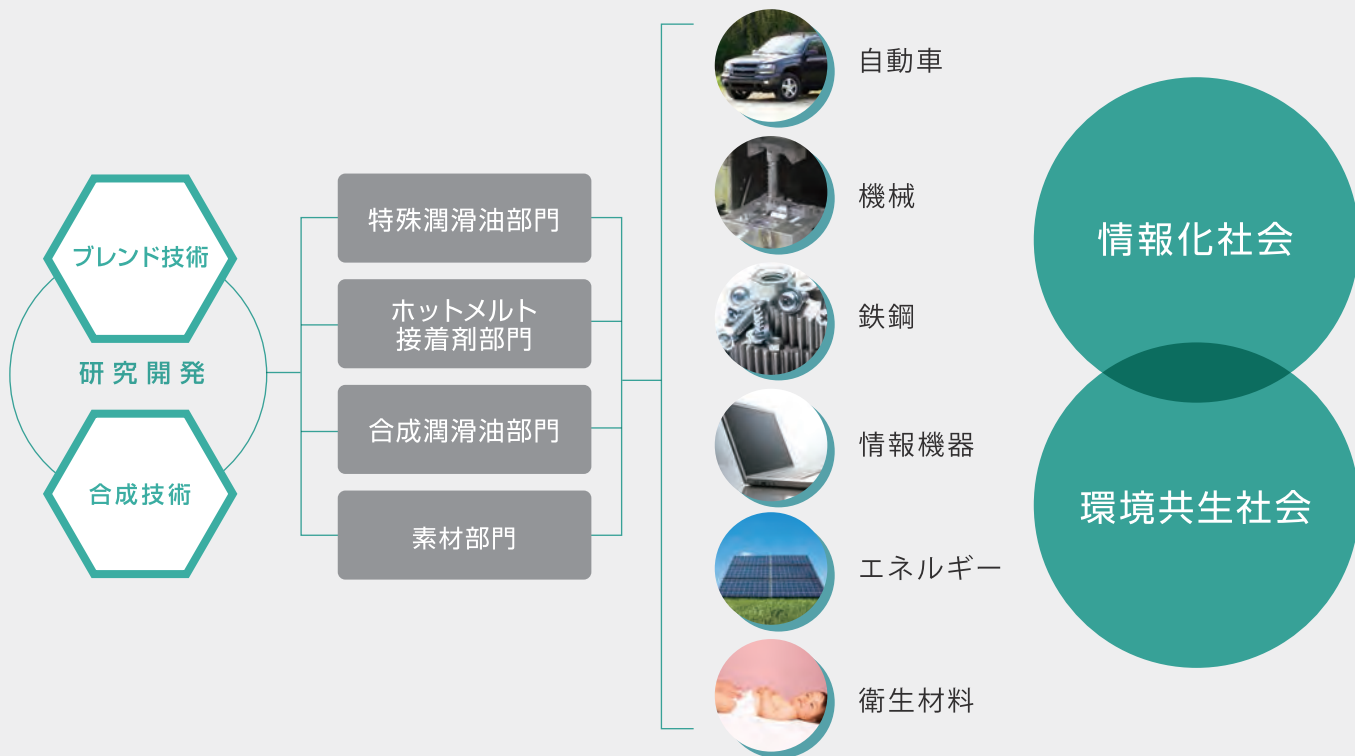


水と油と高分子のスペシャリストとして社会の発展に貢献する

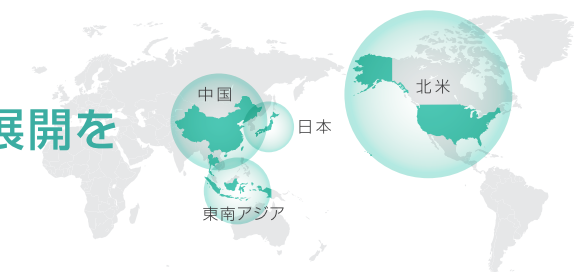
小さくとも世界に きらりと光を放つ企業を目指して

経営理念

- 1 私たちは、「ユーザーのための研究開発」をモットーに、境界領域におけるニーズに応えることによって、いつの時代にも社会に貢献できる企業を目指しています。
- 2 私たちは境界領域のスペシャリストとして、新しい分野へも展開をはかり、新たな機能とサービスを提供してまいります。
- 3 私たちは、人間性を尊重する環境づくりと、自由な発想によって、新しい価値を創造することに喜びをわかち合える企業を目指しています。



グローバルな研究開発を推進し、 MORESCOの持ち味を生かした海外展開を



中期経営計画の達成に向け 好調な滑り出し

前年度、当社の売上高は初めて200億円を超えて237億円を達成し、経常利益も初の20億円に到達しました。こうした過去最高の業績を受け、さらなる成長を推進すべく2013年度末に中期経営計画を発表しましたが、第57期の上期は、前年同期をさらに上回る業績で、ほぼ計画通りに推移しております。

上期において特に好調に推移したのは、3月に新たな事業部として立ち上げた金属加工油事業部です。金属加工の分野は、非常に広がりのある市場でありながら、これまで当社はこの分野にうまく参入できていない状況でした。しかし、今年度は体制を見直したことが奏功し、国内での新規顧客の開拓を中心に、非常に好調な滑り出しを見せており、今後もグローバル展開に期待が持てると考えております。また、世界の自動車生産台数が伸びる中、前年度に引きつづき、エンジン周りに使用される高温用グリース基油が好調を維持しています。目標を達成できるよう、為替や原材料の動向などを十分に注視しながら、下期も経営努力を続けてまいります。

海外企業との グローバル競争を勝ち抜く

MORESCO製品の需要先として大きなボリュームを占める自動車産業。国内の市場が縮小する中、自動車関連分野ではますます海外進出が加速し、特に最近では、インドネシアをはじめとする東南アジアへの展開が広がっています。

また、当社のもうひとつのボリュームゾーンであり、ホットメルト接着剤の主要ターゲットである紙おむつ市場においても、GDPの伸び率や子どもの出生率の高さから、新興国を中心に日系メーカーの海外進出が進んでいます。

海外で新たな市場が育ち、そのビジネスが盛んになると、現地でもその市場をターゲットにする企業が現れ、ローカル製品との競争が生まれます。このような状況の中で競争力を維持し、激化するグローバル競争の中で存在感を示していくために、「グローバルな研究開発の推進」が不可欠であると考えます。(次頁へつづく)

研究開発

製品の高付加価値化と 低コスト化を、競争力の源泉へ

当社の強みである研究開発。そのグローバル化を進める狙いは、大きく2つあります。ひとつは、現地のニーズをスピーディに汲み取り、製品の付加価値を高めること。

これまで、海外営業部隊の働きや現地代理店とのネットワークにより情報収集に努めてきました。海外の研究開発力を強化することで、さらに細やかなニーズ調査や分析が

可能となり、その結果を速やかに開発に反映させ、現地のお客様にとってより魅力的な製品を提供していけると考えます。

もうひとつの狙いは、グローバル調達によるコスト面での競争力強化です。原材料の種類によって、調達の形態も違えば、取り扱うメーカーが限られているものも多くあります。世界各地の情報をリアルタイムでキャッチすることで、良質かつコストパフォーマンスの高い原材料を見つけて調達の効率化を図り、原価の低減をめざします。

製品の高付加価値化と原材料の低コスト化。この両輪をうまく回していくことで、競合メーカーが台頭しつつある新興国市場においても、当社の持ち味を生かしながら競争力を発揮できるものと考えています。

海外との活発な情報交換 アメリカ人女性の社外取締役も誕生

神戸にある本社・研究センターで最先端の技術を生み出し、海外の各拠点でそれを現地のニーズに即したかたちに最適化させていく。このような連携体制を構築するためには、拠点間の綿密なコミュニケーションが

代表取締役社長
赤田 民生

グローバル化の狙いと体制づくり

欠かせません。現在、年に2回、各拠点の代表者が日本に集い、情報交換のためのミーティングを行っています。さらに、日本と各拠点を結び、個別の情報共有も随時行っています。開発者の海外渡航回数も年々増えており、国境を越えたダイナミックなつながりが生まれつつある手応えを感じています。

また、5月末には、当社初となる女性の社外取締役に、アメリカのハードディスクメーカーでVP (Vice President) などを務めたリ・ジュ・ジュディ・リン氏が就任しました。WEB会議などを利用して、日本とアメリカをリアルタイムでつなぎ、活発な議論を行っています。

次々と実を結びつつある 研究開発の成果

研究開発のグローバル化を進める中、今後当社の成長のエンジンとして期待できる事業がいくつか生まれてきています。

1つは、これまでホットメルト接着剤製品は衛生材料の分野で大きく伸張してきましたが、これに続いて自動車産業において、車の内装用に耐熱温度を高めた「反応型

ホットメルト接着剤」を開発。大手自動車メーカーにも採用が進み、今後大きな飛躍をめざす製品です。2つめは、「ハードディスク表面潤滑剤」。既に当社にとって重要な収益源となっている製品ですが、今後はハードディスクの代替品となる新しい記録媒体が台頭してくる可能性があります。そのような変化にも柔軟に対応できるよう、市場のニーズを捉え、高収益を確保していきたいと考えています。3つめは、ホットメルト接着剤で培った技術をエネルギーデバイス分野に生かした「有機デバイス用封止材」。現在、海外展開を含めた動きが加速しつつあり、このチャンスを広大すべく取り組んでいます。(次頁へつづく)

■ 今後の成長が期待される3つの事業



MORESCOの強みである研究開発を成長の柱に

研究開発を原動力に、 新しい市場と地域を切り拓く

私が経営トップとして考えなければならないのは、10年先、当社はどうかたちでグローバルな成長を成し遂げているかというビジョンです。世界の2大大国である中国と北米には、まだまだ伸びしろがあると考えています。現在、東南アジアでのビジネス拡大に力を入れていますが、次に期待される新たな地域にも目を向けています。

9月には、日系自動車メーカーなどの進出が続くメキシコに駐在員事務所を設立。現地の市場リサーチを開始

しました。当社はニッチで魅力的な市場に着目して、オンリーワンの技術を生み出し、発展を続けてきました。その原動力となっているのは、紛れもなく研究開発力です。

これからもその力にますます磨きをかけると共に、新しい地域や市場にも積極的に目を向け、さらなる成長に向けた挑戦を重ねていきます。

そして、成長を続けることにより、株主の皆様に対しても、持続的かつ発展的に還元を行える企業をめざしてまいります。

皆様におかれましては、今後とも末永くMORESCOにご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

トピックス

▶ 株主優待制度のお知らせ

株主の皆様の日ごろのご支援に感謝するとともに、当社株式への投資の魅力を高め、より多くの方々に中長期的に当社株式を保有していただくことを目的に株主優待制度を新設いたしました。

1 株主優待制度の内容

毎年2月末日、8月31日現在の株主名簿に記載または記録された1単元(100株)以上の当社株主を保有されている株主様を対象といたします。

2 優待の内容

対象となる株主様に対して、一律クオ・カード1,000円分を贈呈いたします。



本社・研究センター見学会開催のご案内

株主の皆様にもMORESCOへのご理解を深めていただくことを目的に、本社・研究センター見学会を開催いたします。
この機会にMORESCOの研究開発活動をご紹介します。



本社・研究センター

見学会概要

①見学場所

株式会社MORESCO
本社・研究センター
(神戸市中央区港島南町5-5-3)



②実施日時・当日のスケジュール

2015年 2月25日(水) / 11:00~15:00

1. 会社概況説明
2. 昼食会
3. 本社・研究センター見学(研究棟、評価試作棟)
4. 研究開発や見学についての質問応答、閉会

③集合場所・時間

医療センター駅 改札前 10:45集合
ポートライナー神戸空港行き「医療センター(市民病院前)駅」下車
(駐車場はご用意しておりませんので、公共機関をご利用ください。)

④参加料

無料(ただし集合・解散場所までの往復交通費は各自のご負担とさせていただきます。)

⑤その他

ご見学時の写真・ビデオ撮影はお断りさせていただいておりますのでご了承ください。ご応募により当社が取得する株主様(ご同伴者様)の個人情報につきましては、本見学会を実施する上で必要な限りにおいてのみ使用いたします。

応募要領

①対象者

2014年 8月31日現在、当社株式をご所有の株主様(同伴者は小学生以上の方1名まで可)

②募集人数

30名(同伴者を含む)
※応募人数が多数の場合は、抽選とさせていただきますので、予めご了承ください。結果のご連絡およびご参加いただく株主様への詳細なご案内は、2015年1月中旬ごろにご送付する予定です。(当選者へのご案内をもって発表とさせていただきます。)

③応募締切日

2014年 12月22日(到着分をもって締切)
※2014年 11月12日発送の第57期中間報告書に「参加申込はがき」を同封しております。

お問い合わせ先

株式会社MORESCO 広報部 TEL 078-303-9058
■受付時間 10:00~17:00(土・日・祝日を除く)

前年同期比、売上高は16.2%増、経常利益は24.0%増

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、消費税率引き上げにともなう駆け込み需要の反動が長引いており、期待されたほどの景気回復力が感じられない状況が続いております。一方で、雇用の回復や堅調な個人消費にともなう安定した米国経済を背景に再び円安が進み始めました。中国経済は、構造的な不安材料を抱えながらも7%台なかばの高い成長率を維持していますが、東南アジア諸国をはじめとする新興国は政治的問題や財政問題等により成長率が鈍化し始めております。

このような状況のもと、当社グループにおきましては、昨年度に日華化学㈱から譲り受けたダイカスト用油剤、熱間鍛造潤滑剤事業の売上高が増加した他、インドネシアでは紙おむつ用ホットメルト接着剤の生産が順調に拡大し、売上高増に貢献しました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は12,842百万円(前年同期比16.2%増)となり、経常利益は1,112百万円(前年同期比24.0%増)、四半期純利益は651百万円(前年同期比21.4%増)となりました。

セグメントの業績の概況

日本

前年同期比、売上高は12.0%増、利益は6.0%増

●特殊潤滑油

自動車メーカーおよび自動車部品メーカーを主たる顧客とする特殊潤滑油では、消費税率の引き上げにともなう駆け込み需要の反動減はあったものの、日華化学㈱から譲り受けたダイカスト用油剤、熱間鍛造潤滑剤事業が寄与し売上高は堅調に推移しました。また、水溶性切削油剤では新規顧客の獲得と既存顧客への出荷が増加し順調に売上高を伸ばしました。

●素材

流動パラフィン、リチウムイオン電池のセパレーター生産向けが好調に増加した他、化粧品原料用途も堅調に推移しました。また、金属加工油の添加剤として使用される石油スルホネートの売上高も、堅調に推移しました。

以上の結果、当セグメントの売上高は10,203百万円(前年同期比12.0%増)となり、セグメント利益は、574百万円(前年同期比6.0%増)となりました。

●合成潤滑油

自動車用電装部品のベアリング軸受用グリースの基油として世界的にシェアが高い高温用合成潤滑油は、中国や北米を中心とする自動車生産が下支えとなり、売上高は堅調に推移しました。また、ハードディスクドライブの生産台数は横ばいではありますが、ハードディスク表面潤滑剤の新製品への移行が進み、売上高は前年同期を上回りました。

●ホットメルト接着剤

主力である大人用紙おむつなどの衛生材向けや粘着剤用途については、消費税増税の影響が長引いており、ほぼ前年同期並みの売上高となりました。また、空気清浄機フィルター用接着剤の売上高は堅調に推移しました。

中国

前年同期比、売上高は17.9%増、利益は77.1%増

中国では、引き続き自動車生産台数の安定した伸びに支えられ、ダイカスト用油剤、難燃性作動液等が前年同期の売上高を大きく上回った他、ホットメルト接着剤も堅調に推移しました。

当セグメントの売上高は1,183百万円(前年同期比17.9%増)となり、セグメント利益は142百万円(前年同期比77.1%増)となりました。

東南アジア

前年同期比、売上高は38.9%増、利益は98.3%増

政治情勢が依然不透明なタイでは、自動車生産台数が前年同期比で減少する中、日華化学㈱から譲り受けたダイカスト用油剤、熱間鍛造潤滑剤事業が売上高に大きく貢献しました。インドネシアでも、熱間鍛造潤滑剤事業が特殊潤滑油の売上高を押し上げました。また、子供用紙おむつ向けホットメルト接着剤の生産も順調に拡大しました。

当セグメントの売上高は1,741百万円(前年同期比38.9%増)となり、セグメント利益は211百万円(前年同期比98.3%増)となりました。

日本

北米

前年同期比、売上高は108.1%増、利益は291.1%増

北米では、好調な自動車生産を背景に、自動車関連顧客向け販売が順調に推移するとともに、ダイカスト用油剤等の新規ユーザーの獲得等により売上高が増加しました。また、高温環境下で使用する合成潤滑油の需要も着実に拡大し、さらに日華化学㈱から譲り受けた熱間鍛造潤滑剤事業が売上高に大きく貢献しました。

当セグメントの売上高は346百万円(前年同期比108.1%増)となり、セグメント利益は36百万円(前年同期比291.1%増)となりました。

四半期連結貸借対照表

(単位:百万円)

科目	当第2四半期 平成26年8月31日現在	前第2四半期 平成25年8月31日現在
資産の部		
流動資産	13,045	11,898
現金及び預金	2,713	2,748
受取手形及び売掛金	6,296	5,610
たな卸資産	3,698	3,155
その他	338	384
固定資産	8,480	8,020
有形固定資産	5,404	4,933
無形固定資産	1,589	1,490
投資その他の資産	1,487	1,597
資産合計	21,525	19,917
負債の部		
流動負債	7,892	7,562
支払手形及び買掛金	4,931	4,194
短期借入金	1,471	2,087
その他	1,490	1,280
固定負債	2,024	1,891
長期借入金	1,671	1,354
その他	353	537
負債合計	9,916	9,453
純資産の部		
株主資本	10,213	9,177
資本金	2,091	2,091
資本剰余金	1,951	1,951
利益剰余金	6,172	5,136
自己株式	△0	△0
その他の包括利益累計額	289	309
少数株主持分	1,107	979
純資産合計	11,609	10,465
負債・純資産合計	21,525	19,917

※記載金額は百万円未満を四捨五入して表示しております。

四半期連結損益計算書

(単位:百万円)

科目	当第2四半期 自平成26年3月1日 至平成26年8月31日	前第2四半期 自平成25年3月1日 至平成25年8月31日
売上高	12,842	11,046
売上原価	8,966	7,727
売上総利益	3,876	3,320
販売費及び一般管理費	2,888	2,557
営業利益	988	763
営業外収益	141	166
営業外費用	17	32
経常利益	1,112	897
税金等調整前四半期純利益	1,112	897
法人税、住民税及び事業税	249	181
法人税等調整額	97	88
少数株主損益調整前四半期純利益	766	628
少数株主利益	115	92
四半期純利益	651	536

※記載金額は百万円未満を四捨五入して表示しております。

四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科目	当第2四半期 自平成26年3月1日 至平成26年8月31日	前第2四半期 自平成25年3月1日 至平成25年8月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,011	502
投資活動によるキャッシュ・フロー	△692	△1,652
財務活動によるキャッシュ・フロー	704	2,597
現金及び現金同等物に係る換算差額	△25	19
現金及び現金同等物の増減額	997	1,465
現金及び現金同等物の期首残高	1,441	1,015
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,438	2,480

※記載金額は百万円未満を四捨五入して表示しております。

(平成26年8月31日現在)

会社概要

商号 株式会社MORESCO
 設立 1958年10月27日
 資本金 2,090,578,200円
 従業員数 286名

本社および事業所

本社・研究センター 神戸市中央区港島南町5丁目5-3
 電話 078-303-9010(代表)
 支店 東京支店／大阪支店
 営業所 名古屋営業所
 工場 千葉工場／赤穂工場

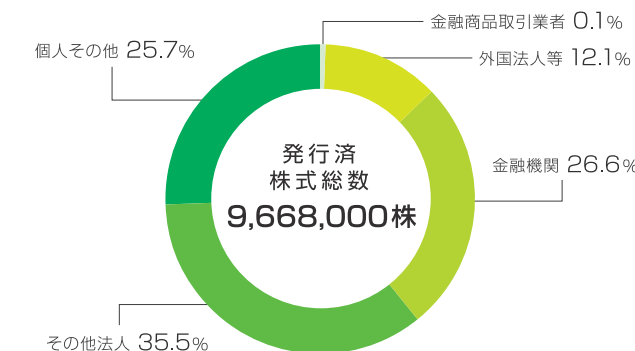
役員構成

代表取締役 社長執行役員 赤田 民生
 取締役 専務執行役員 竹内 隆
 取締役 常務執行役員 山地 一
 取締役 常務執行役員 菊池 習作
 取締役 常務執行役員 両角 元寿
 取締役 相談役 中野 正徳
 取締役 米田 徳夫
 取締役 浅野 応孝
 取締役 常勤監査役 リジュ・ジュディリン
 監査役 本田 優
 監査役 富野 武
 監査役 小沢 史比古
 監査役 長谷川 克博

株式の状況

発行可能株式総数 20,000,000株
 発行済株式総数 9,668,000株
 株主数 3,254名

株式所有者別分布状況



大株主

株主名	持株数	株主比率(%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	1,191,200	12.3
松村石油株式会社	1,067,000	11.0
コスモ石油ルブリカンツ株式会社	503,000	5.2
日本曹達株式会社	365,000	3.8
MORESCO従業員持株会	352,720	3.6
双日株式会社	327,000	3.4
三菱商事株式会社	327,000	3.4
ノムラビービーノミニーズ ティーケーワンリミテッド	299,900	3.1
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	290,400	3.0
ビービーエイチ マシユーズ ジャパン フアンド	287,100	3.0

持株比率は自己株式(578株)を控除して計算しております。

株主メモ | Shareholder Memo

- 事業年度
3月1日～翌年2月末日
- 期末配当金受領株主確定日
2月末日
- 中間配当金受領株主確定日(中間配当を行う場合)
8月31日
- 定時株主総会
毎年5月
- 株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関
三菱UFJ信託銀行株式会社
- 同連絡先
三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部
〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号
TEL:0120-094-777(通話料無料)
- 上場証券取引所
東京証券取引所

〈公告の方法〉

電子公告により行う

公告記載URL <http://www.moresco.co.jp/>

(ただし、電子公告によることが出来ない事故、その他やむを得ない事由が生じたときは日本経済新聞に公告いたします。)

【ご注意】

◎株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている証券会社等にお問合わせください。

株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。

◎特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合わせください。なお三菱UFJ信託銀行全国本支店でもお取り扱いいたします。

◎未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行全国本支店でお支払いいたします。